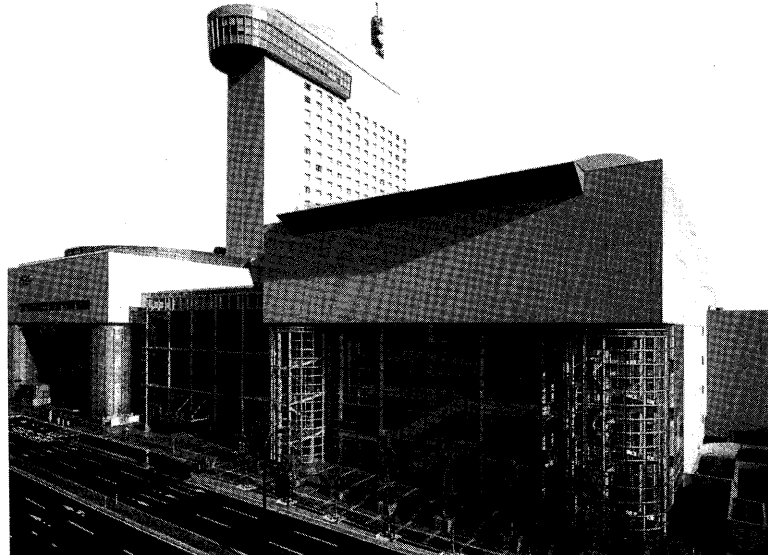


5. 大分県立総合文化センター

○ ホール(オアシス広場21)の全景



○ ホールの概要

施設名	大分県立総合文化センター		
所在地	〒870-0029 大分県大分市高砂町2-33		
TEL/FAX	TEL: 097-533-4000 / FAX: 097-533-4009		
運営母体	(財)大分県文化振興財団		
立地都市の人口	123万人(大分県)、43万人(大分市)		
施設構成・規模	ホール施設	グランシアタ(1,966席):多目的、プロセニウム+走行式音響反射板 音の泉ホール(710席):多目的、オープンステージ	
	その他施設	Space Be (リハーサル室、大練習室-1室、中練習室-2室、小練習室-6室、映像小ホール、県民ギャラリー、文化情報ラウンジ) アトリウムプラザ、中会議室(2)、小会議室(4)	
	敷地面積	15,432㎡(複合全体)	駐車台数 300台
	建築面積	12,296㎡(複合全体)	延べ床面積 38,309㎡
総事業費	229億875万円	建設工事費	221億9,537万円
年間自主事業費	2億円以上	自主事業公演数	約20本
総スタッフ数	40名	新規採用者数	19名
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ローカルにしてグローバルな大分文化の創造拠点として、「心ゆたかな人」を育て、「ゆとりある地域」をめざします。 県内で行われている多様な文化活動をさらに発展させ、実りあるものにするのが文化ホールの使命です。文化ホールで行われる様々な事業による交流や出会いのプロセス・体験こそが文化の育成につながるのです。「人と人」、「人と文化」、「文化と文化」の交流が「心ゆたかな人」、「ゆとりある地域」を育てます。 		

● ホールの計画づくりの概要

<p>検討開始から開館までのプロセス</p>	<ul style="list-style-type: none"> 90年 4月:基本計画の検討開始→92年:県立病院移転跡地再開発計画のための「県立病院跡地高度利用基本構想策定委員会」設置 94年 2月:一括事業化提案競技方式での企画案募集→同年7月:F.T.Cグループを選定→95年 4月:実施設計発注 96年 2月:財団法人大分県文化振興財団設立 96年 4月:建設工事着工→98年 7月:竣工 98年 9月:民間部分オープン、同年10月:ホール部分オープン
<p>設計者の選定と設計の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設、ホテル、NHK 大分放送局との複合施設建設にあたって、「一括事業化提案競技方式」(開発方針から建築計画、運営計画まで含めた事業計画の提案をコンペ方式で選定するもの)を採用。審査委員会を組織し、5グループの提案から、F.T.C.グループ(フジタ、新日本製鉄、日建設計、第一ホテル、梅林組、佐藤組)案を選定した。 選定にあたっては建物のシンボル性、施設配置と動線、施設内容、民間施設の賑わいづくりへの寄与や経営計画の健全性などの観点から総合的に審査、選定した。 提案競技の後、県の担当部局で、民間事業者やNHKといった共同事業者と話し合いを進めた。
<p>設計者</p>	<p>(株)日建設計(F.T.C.グループ)</p>
<p>コンサルタント</p>	<p>(株)シアターワークショップ、(株)永田音響設計(設計事務所の意見を参考に選定)</p>
<p>運営方法の検討 運営体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県庁内企画調整課で検討班を組織。 現財団職員のうち、県からの派遣:12名、プロパー:3名(役員含む)、派遣・嘱託:16名。企画事業課には、公募で採用した芸術分野の企画業務経験者がいる。 自主事業では、県民の需要、ホールの舞台規模等を念頭に置きながら、大分県と二期会等とのつながりを活かしたオペラの上演をはじめ、多様な鑑賞事業を充実させることをコンセプトに、財団内事業担当セクションで企画を行っている。 ボランティアのエモスタッフを県民から公募、レセプションistとして活用。
<p>開館記念事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国民文化祭の開催をもってホールのオープニングとした。 財団独自事業として、オープン時の平成10年10月のNHK交響楽団のコンサートから、翌平成11年の4月のオペラ「トゥーランドット」の公演まで、年度をまたがって大々的に事業を行なった。 「トゥーランドット」公演は、東急文化村と共同制作、開館記念事業の最大の目玉として企画した。
<p>計画づくりにおける特徴・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県立病院跡地再開発として計画、大分県の文化発信拠点、周辺地域の賑わい創出施設としての役割を担う施設。 商業施設、ホテル、NHK 大分放送局との複合施設建設であり、F.T.C.グループが建物を建設、NHKと県でそれぞれの専用部分を買取り、商業施設、ホテル部分はF.T.C.グループ所有による賃貸。土地は、県とNHKが保有してF.T.C.グループに賃貸。 他事業体との調整や、利用方法に制約のある中での管理・運営が課題。また、ホールとしての事業のみならず、施設全体を活性化する事業づくりに取り組むことが今後の課題。